

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
ユニバーサルコミュニケーション研究所 計算標準

■使用評価マニュアル CASBEE-京都-建築(新築)2018年
■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
床:タイルカーペット、天井:岩綿吸音板								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能								
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
個別空調の設定								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 昼光制御								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
執務室の設計照度750lx								
4 空気環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御								
F☆☆☆☆を全面的に採用								
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
メンテナンスバルコニーを設置し、維持管理に配慮								
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震・制震・制振								
1 耐震性(建物のこわれにくさ)								
2 免震・制震・制振性能								
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								
2.4 信頼性								
1 空調・換気設備								
2 給排水・衛生設備								
3 電気設備								
4 機械・配管支持方法								
5 通信・情報設備								
重要系統のエアコンを2系統化								
電源設備2重化、非常用発電機、UPS								
通信手段多様化、キャリア複数、UPS								

3 対応性・更新性				4.2	0.30			4.2
3.1 空間のゆとり				5.0	0.30			
1 階高のゆとり				5.0	0.60			
2 空間の形状・自由さ		●大切	A(全国版準用)	5.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30			
3.3 設備の更新性				4.6	0.40			
1 空調配管の更新性		●大切	A(全国版準用)	5.0	0.20			
2 給排水管の更新性		●大切	A(全国版準用)	4.0	0.20			
3 電気配線の更新性		●大切	A(全国版準用)	5.0	0.10			
4 通信配線の更新性		●大切	A(全国版準用)	5.0	0.10			
5 設備機器の更新性		●大切	A(全国版準用)	5.0	0.20			
6 バックアップスペースの確保				4.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30			2.7
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)	3.0	0.30			3.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30			2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 自然	A'(全国版準用)	1.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)	3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性								4.0
LR1 エネルギー					0.40			4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制				5.0	0.20			5.0
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)	3.0	0.10			3.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	4.8	0.50			4.8
4 効率的運用				3.0	0.20			3.0
集居住宅以外の評価				3.0	1.00			
4.1 モニタリング				3.0	0.50			
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			
集居住宅の評価				3.0	-			
4.1 モニタリング				3.0	-			
4.2 運用管理体制				3.0	-			
LR2 資源・マテリアル					0.30			4.0
1 水資源保護				3.4	0.20			3.4
1.1 節水				4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無		●自然	A(全国版準用)	3.0	0.70			
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減				4.1	0.60			4.1
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	3.0	0.10			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	5.0	0.20			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	5.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)	2.0	0.10			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	5.0	0.20			
3 汚染物質含有材料の使用回避				4.3	0.20			4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				5.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.70			
1 消火剤				4.0	0.33			
2 発泡剤(断熱材等)				5.0	0.33			
3 冷媒				3.0	0.33			
LR3 敷地外環境					0.30			3.6
1 地球温暖化への配慮				4.1	0.33			4.1
2 地域環境への配慮				3.5	0.33			3.5
2.1 大気汚染防止				5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)	3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.3	0.25			
1 雨水排水負荷低減				-	-			
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.33			
3 交通負荷抑制				4.0	0.33			
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.33			
3 周辺環境への配慮				3.4	0.33			3.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			
1 騒音				3.0	0.33			
2 振動				3.0	0.33			
3 悪臭				3.0	0.33			
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制				3.3	0.40			
1 風害の抑制				3.0	0.70			
2 砂塵の抑制				-	-			
3 日照阻害の抑制				4.0	0.30			
3.3 光害の抑制				4.4	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				5.0	0.70			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		●とも	B(推奨内容)	3.0	0.30			

記号凡例 ●: 重点項目 ○: 低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」: 大切に使う 「とも」: ともに使う 「自然」: 自然からつくる